

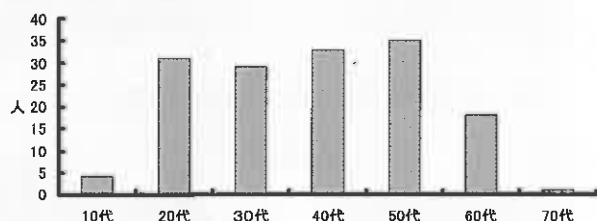
## ◆担い手育成事業

### 平成20年新規漁業就労者調査

水産業改良普及センター 牧野清人

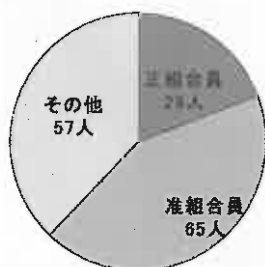
平成20年1月から12月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規参入者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、組合脱退者についても聞き取り調査を行った。新規参入者は151名で、年代をみると、10代の参入者は4名、20代から50代の人数がそれぞれ30名前後、60代が18、70代が1名という結果で、10代が若干増えたものの、昨年と大幅な年齢層の違いはみられなかった。性別でみると、男性が149名、女性が2名であった。

年代別新規参入漁業者数



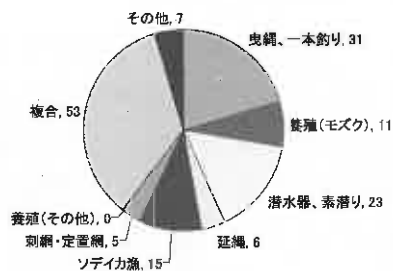
新規参入者の中で、正組合員は29名、准組合員は69名、その他が57名で平成19年とほぼ同じ傾向であった。

新規参入漁業者の内訳



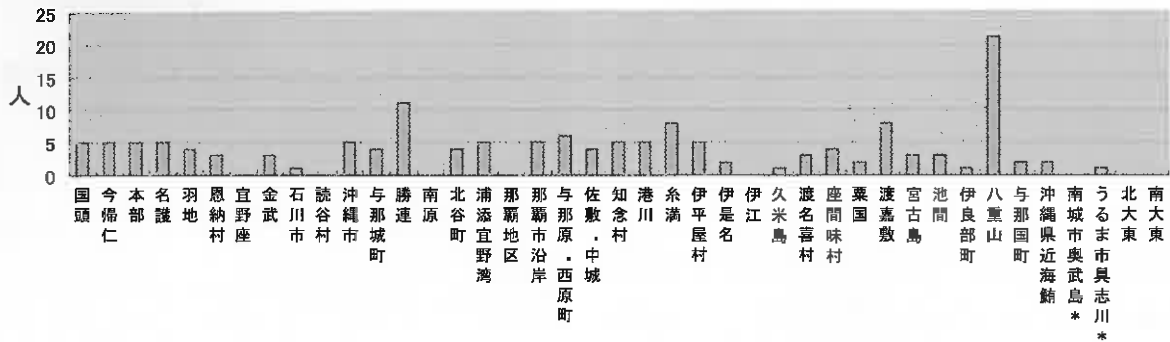
新規参入者の漁業種類は複合が53名と最も多く、一本釣りやモズク養殖との複合が多くなる傾向にあった。単一の業態としては曳縄、一本釣り漁業が31名と最も多く、次いで潜水器、素潜り漁が23名、ソデイカ漁が15名、モズク養殖が11名といった順で、単一でモズク養殖を行う漁業者が昨年よりも減っている。

漁業種類別新規参入者数(人)



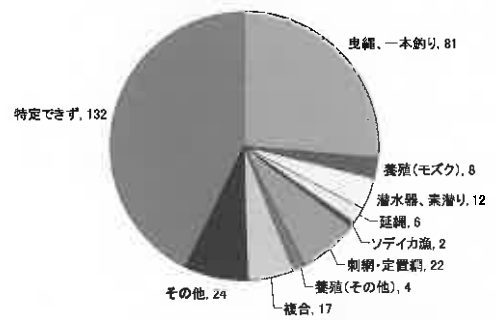
各漁協ごとの新規参入者数をみると、八重山漁協が21名と最も多く、次いで勝連漁協が11名、糸満漁協と渡嘉敷漁協がそれぞれ8名の順で多い結果で、それぞれの内訳をみると、八重山では19年は一本釣り漁業の新規参入者が最も多かったのに対し、20年は潜水漁業が多くなっている。勝連漁協では新規の11名の内、刺し網、採貝藻、モズクの複合経営が9名と多い。糸満漁協では8名中7名がソデイカ漁であった。

# 漁協別新規参入者数

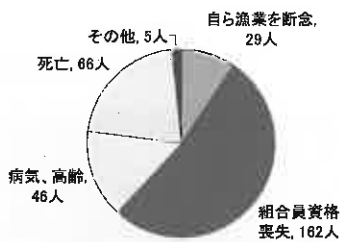


平成20年における漁協の脱退者は308名で、19年における190名を大幅に上回った。内訳としては任意脱退者が29名、病気、高齢では46名、組合員資格の喪失が162名、死亡による脱退者が66名であり、組合員資格の喪失による脱退が最も多かったが、脱退者全員の中でも、少なくとも漁協に対して水揚げが出来ずにやめている漁業者が多いことが伺える。

漁業種類別組合脱退者数(人)



事由別組合脱退者数



漁業種類別に脱退者数をみると、特定できなかった132名が最も多いが、曳縄、一本釣りのパヤオ漁業が全体の1/4を占め、次いでその他、刺網、定置網の順が多い。

年齢別に脱退者数をみると、特定できている中で、病気、死亡で脱退している漁業者は70代以上の高齢者ほど多い傾向にある。

今後、県内における漁業者の新規加入、脱退は水揚げ量や燃料等のコスト、水産物価格の変動にも大きく影響されるとおもわれるが、今後、高齢化による漁業者の減少にも注意してゆく必要がある。

年齢、事由別脱退者数

|     | 自ら漁業を断念 | 組合員資格喪失 | 病気、高齢 | 死亡 | その他 |
|-----|---------|---------|-------|----|-----|
| 20代 | 0       | 1       | 0     | 1  | 1   |
| 30代 | 0       | 0       | 0     | 1  | 1   |
| 40代 | 3       | 4       | 0     | 4  | 1   |
| 50代 | 15      | 10      | 0     | 9  | 1   |
| 60代 | 4       | 7       | 3     | 4  | 1   |
| 70代 | 7       | 6       | 22    | 31 | 0   |
| 80代 | 0       | 1       | 20    | 12 | 0   |
| 90代 | 0       | 0       | 1     | 4  | 0   |